

ホームシアター システム

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

△警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品
の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書と別冊の「安全
のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管して
ください。

HT-K170

この取扱説明書の使いかた

- 「準備 (4~9ページ)」をご覧になって接続などの準備を済ませてください。
- 基本的な使いかたは、「見たい、聞きたいソースを選ぶ (10~11ページ)」をご覧ください。
- この取扱説明書では、次の記号を使っています。

記号	意味
	リモコンで操作します。
	知っていると便利な情報です。

ファンの設定を変更するにはI/Offボタンを押しながらセンター モードボタンを押します。次のように設定が切りかわります。

選ぶ	結果
FAN ON	常にファンをオンにする。
FAN AUTO	スピーカーからの出力に応じて、ファンを自動的にオンにする。

目次

準備

箱から出したら	4
接続の全体図	4
ビデオ機器を接続する	5
スピーカーを接続する	6
電源コードを接続する	9
本機をご使用になる前に	9

ここだけ読んでも使えます

見たい、聞きたいソースを選ぶ	10
----------------------	----

リモコンの便利な使い方

リモコンで聞きたい音源を選ぶ	12
ファンクションボタンの設定を変える	13
スリープタイマーを使う	14

サラウンドを楽しむ

サラウンドを楽しむ前に	15
音場効果を選ぶ	15
ドルビープロロジックサラウンド*を楽しむ	16

その他

使用上のご注意	18
故障かな？と思ったら	18
保証書とアフターサービス	19
主な仕様	20
用語解説	21
リモコンのボタン説明	22
索引	23
リアパネルの各部名称	23

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY、ダブル記号□、AC-3及びPRO LOGICはドルビーラボラトリーズの商標です。

箱から出したら

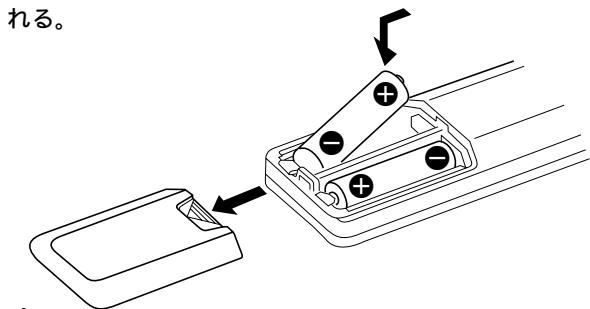
次の付属品がそろっているかを確認してください。

- リモコン(1)
- 単3形乾電池(2)
- スピーカー(5)
 - フロント、センター、リア用
- サブウーファー(1)
- スピーカーコード 10 m(2)
- スピーカーコード 2.5 m(3)
- モノラルオーディオコード(1)
- スピーカーパッド(20)
- ソニーサービス窓口・ご相談窓口のご案内(1)
- 保証書(1)

もし、付属品がそろっていないときは、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

リモコンに電池を入れる

④と⑤の向きを合わせて、単3形乾電池(付属)2個を入れる。



乾電池の寿命は約6か月です。

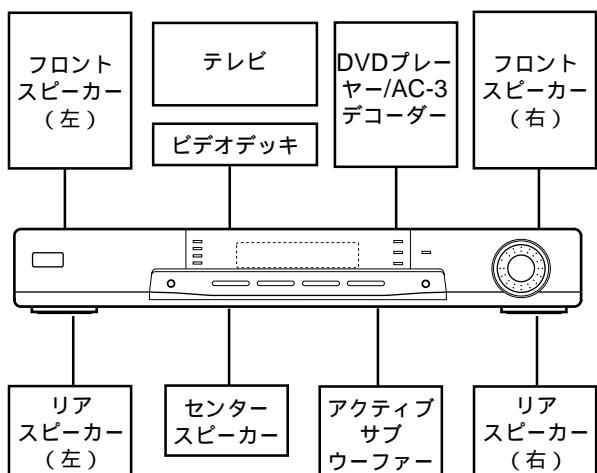
残りが少なくなると、リモコンで操作できる距離が短くなります。これを目安にして、2個とも新しい乾電池に交換してください。

ご注意

- 乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
 - ④と⑤の向きを正しく入れてください。
 - 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
 - 乾電池は充電しないでください。
 - 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
 - 液もれしたときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

接続の全体図

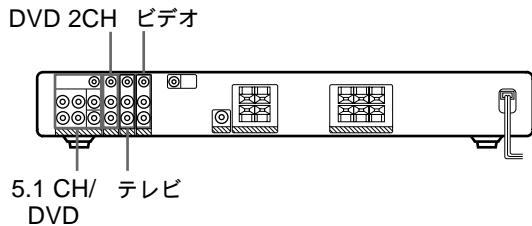
本機は以下のオーディオ/ビデオ機器に接続できます。各端子の位置と名前については、「リアパネルの各部名称(23ページ)」をご覧ください。



接続についてのご注意

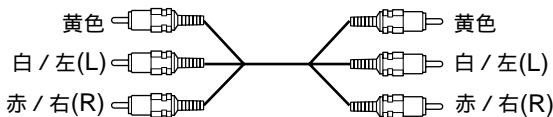
- 電源を必ず切ってから接続してください。
- すべての接続が完了するまで、電源コードは接続しないでください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因となります。
- 接続コードの黄色いプラグはビデオ端子へ、赤いプラグはオーディオR(右)端子へ、白いプラグはオーディオL(左)端子へつなぎます。

ビデオ機器を接続する



1 必要な接続コードを用意する。

オーディオ / ビデオ接続コード(各機器に付属または別売り)



ビデオ接続コード(各機器に付属または別売り)

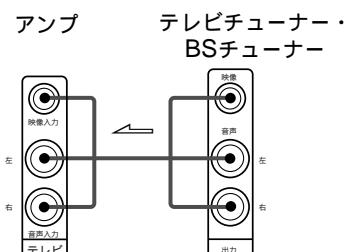


2 つなぐ。

黄色(映像)端子には黄色いプラグを、白(L)端子には白プラグを、赤(R)端子には赤プラグをつなぎます。つなぐときはプラグを端子にしっかりと差し込んでください。しっかりと差し込むないと雑音の原因になります。

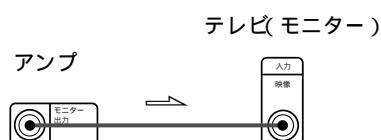
→ : 信号の流れ

■テレビチューナー・BSチューナー



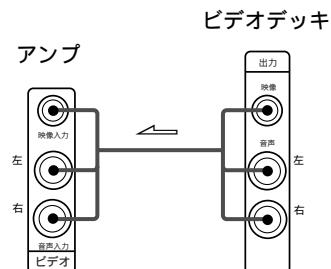
■テレビモニター

モニター出力端子をご使用の場合は、テレビ映像入力端子にテレビをつながないでください。



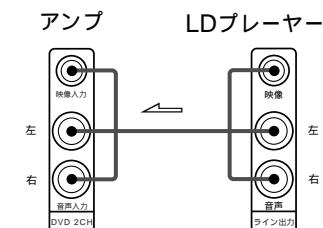
■ビデオデッキ

ビデオデッキを2台お持ちの場合は、もう1台(再生用)をDVD 2CH端子につないでください。

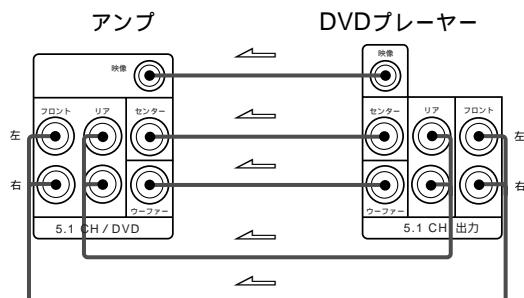


■DVDプレーヤー・LDプレーヤー

ドルビーデジタルAC-3デコーダーを内蔵していないDVDプレーヤーの場合は、DVD 2CH端子につないでください。

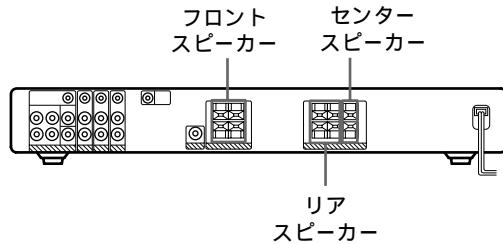


■ドルビーデジタルAC-3デコーダー内蔵のDVDプレーヤー



ドルビーデジタルAC-3デコーダーをお持ちの場合は
ドルビーデジタルAC-3を使用しているソースを聞く
ことができます。上図のように接続してください。

スピーカーを接続する



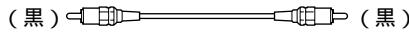
1

必要な接続コードを用意する。

- スピーカーコード(付属)各スピーカー1本)



- モノラルオーディオコード(付属)

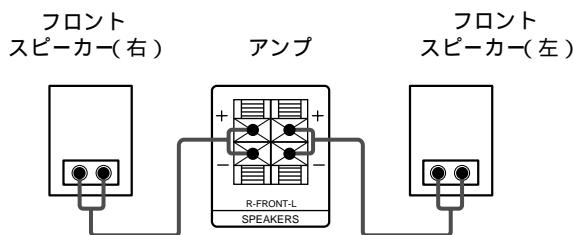


2

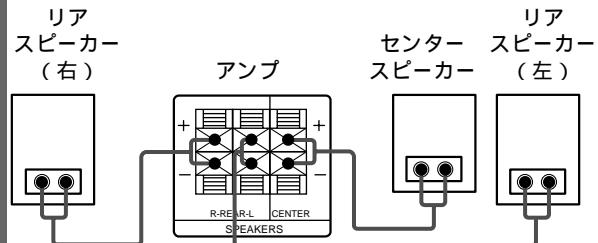
つなぐ。

右スピーカーはスピーカー(右)端子に、左スピーカーはスピーカー(左)端子につなぎます。スピーカーコードはスピーカー端子の極性に合わせて $+$ は $+$ どうし $-$ は $-$ どうしてつなぎます。スピーカーコードは線やマークのある方を $+$ と決めておくと、極性を間違えることがありません。

■フロントスピーカー (SS-MS215)



■リアスピーカー / センタースピーカー (SS-MS215)

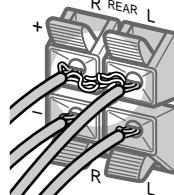


■スピーカーのショート防止のために

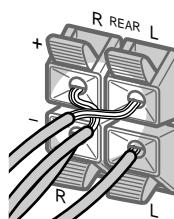
スピーカーのケーブルがショートしていると故障の原因になることがあります。接続の際に下記に注意し、正しく接続してください。

スピーカーケーブル接続の際は、芯線部分が他の端子や、他のケーブルの芯線部分に触れないよう、十分に注意してください。

<悪い例>



芯線の一部が別の端子にふれている。



芯線をむきすぎたため、芯線どうしが触れている。

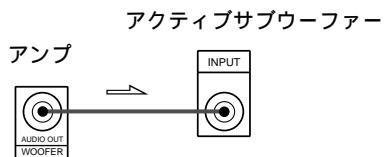
他の機器、スピーカー、および電源コードの接続が終了したら、テストトーンを実行し、各スピーカーが正しく接続されているかを確認してください。

左右のリアスピーカーを接続しているときは、本体の5.1CH/DVDボタンを押してからテストトーンを行ってください。左右のリアスピーカーから別々にテストトーンが outputされます。

テストトーンを行っても、あるスピーカーから音が出なかったり、表示管に表示されているスピーカー名と実際に音が出ているスピーカーが異なる場合は、スピーカーがショートしているか接続が間違っている可能性があります。もう1度接続を確認してください。

詳しくは、「スピーカーを接続する(このページ)」「スピーカーの音量を調節する(17ページ)」をご覧ください。

■アクティブサブウーファー (SA-WMS215)

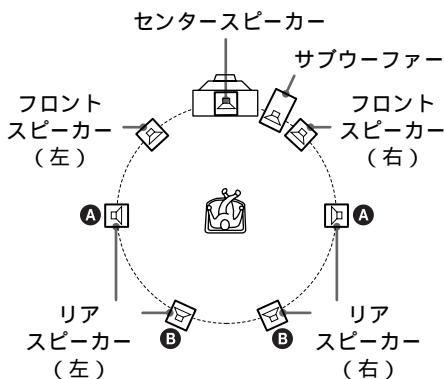


ご注意

- スピーカーユニットは本体底部に取り付けられています。
- スピーカーユニットに触らないでください。
- アクティブサブウーファーは障害物のない平らな場所に設置してください。
- この接続をされる場合は、ビデオ内蔵のテレビチューナーをご使用にならないとテレビ放送のサラウンドをお楽しみいただけません。ビデオ内蔵のテレビチューナーをお使いになり、本機のファンクションは、VIDEOに切り換えてください。

スピーカーの位置を決める

それぞれのスピーカーの位置



それぞれのスピーカーはリスニングポジションに向けます。全てのスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置すると、より良いサラウンド効果が得られます。

フロントスピーカーをテレビの左右に適切な距離に設置します。

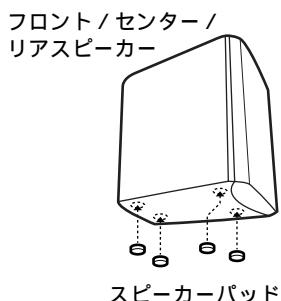
サブウーファーをテレビの横に設置します。

センタースピーカーをテレビの上に置きます。

リアスピーカーは部屋の形に応じて、リスニングポジションの横に置くこと(Ⓐ)も、後ろに置くこと(Ⓑ)もできます。

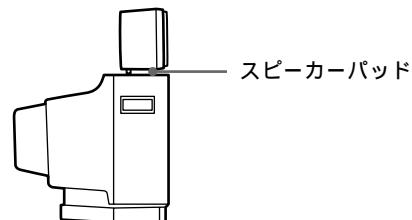
スピーカーを設置する

スピーカーを再生中の振動から防ぐために、付属のスピーカーパッドをフロントスピーカー、センタースピーカー、リアスピーカーの底の四隅に張り付けます。ただし、スピーカースタンドをお使いの場合には張り付ける必要はありません。



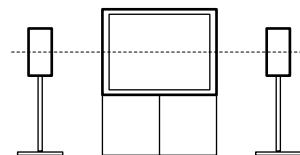
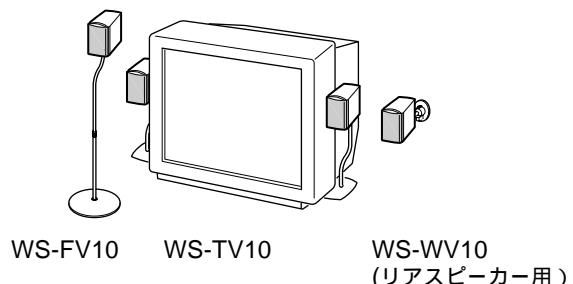
センタースピーカーの設置

センタースピーカーを水平になるようにテレビの上に設置します。



他のスピーカーの設置

スピーカーをお好みの位置に設置するため、別売りのスピーカースタンド、WS-FV10、WS-TV10、もしくはWS-WV10をお使いください。

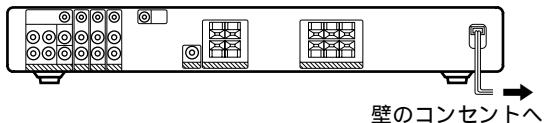


フロントスピーカーの高さはテレビ画面の中心に合わせてください。

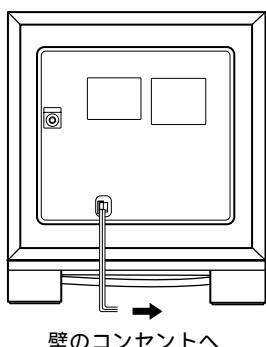
電源コードを接続する

本機の電源コードを壁の電源コンセントにつなぎます。

アンプ



アクティブサブウーファー



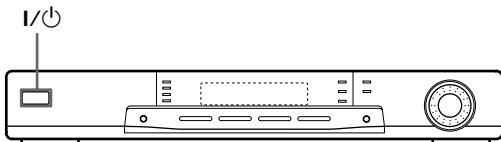
本機をご使用になる前に

本機の電源を入れたら、以下のことを確認してください。

- 前面のMUTINGランプが点灯していたら、リモコンの消音ボタンを押してください。
- MASTER VOLUME(主音量)つまみを回してVOL MIN(表示窓に表示されます)にします。

はじめてお使いになるときは

本機のメモリーをクリアしてからお使いください。



1 本機の電源を切る。

2 4秒以上I/□を押す。

「INITIAL」と表示されます。

次の項目がリセットまたはクリアされます。

- 音場効果のパラメーターの設定が初期化され、工場出荷時の状態になります。
- ファンの設定がFAN ONにリセットされます。

ご注意

ドルビーデジタルのとき

ソニー製のDVDプレーヤーと一緒に本機をお使いになる場合、以下の表にしたがってDVDプレーヤーの設定をしてください。

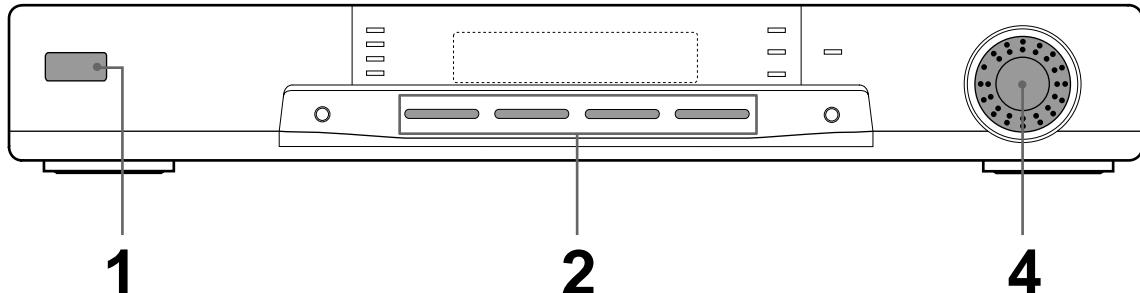
設定の手順については、ご使用のDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

(スピーカーの設定)

メニュー	設定
フロントスピーカー	SMALL
センタースピーカー	SMALL
リアスピーカー	SMALL
サブウーファー	ON(またはYES)

ソニー製以外のDVDプレーヤーをお使いのときは、お使いのDVDプレーヤーの取扱説明書の「スピーカーの設定」に関する項目を参照して設定してください。

見たい、聞きたいソースを選ぶ



本機をご使用になる前に必ず、次のことを確認してください。

- すべての機器が4~7ページに示されているようにしっかりと正しく接続してありますか。
- スピーカーの損傷を防ぐためにMASTER VOLUMEつまみ(主音量)を回してVOL MIN(表示窓に表示されます)にしてありますか。

1 電源を入れる。

2 ファンクションボタンを押して使用したい機器を選ぶ。

見たい、聞きたいソース	押すボタン	テレビの入力切替
テレビ番組	TV	ビデオ入力
ビデオテープ	VIDEO	ビデオ入力
DVD・2台目のビデオ	DVD 2CH	ビデオ入力
ドルビ - デジタルAC-3デコーダー 内蔵のDVD	5.1 CH/DVD	ビデオ入力

リモコンで操作する場合は、「リモコンで聞きたい音源を選ぶ」(12ページ)をご覧ください。

3 選んだ機器の電源を入れ、再生する。

テレビ番組を見る場合は、テレビでチャンネルを選びます。

4 マスター VOLUMEつまみを回して、音量を調節する。

テレビのスピーカーの音量を調節するには、テレビ側で音量を調節してください。



テレビ／ビデオを見るには

テレビやビデオをご覧になるとき、テレビのスピーカーのかわりに本機で音声をお聞きになることをお薦めします。ドルビーサラウンドなどのサラウンド効果をお楽しみいただけます。また、本機のリモコンで音声を調節できるようになります。本機のサラウンド効果をフルに生かすため、お使いになる前にテレビのスピーカーの音量を絞ってください。

テレビを見るには

- 1 テレビの電源を入れる。
- 2 本機の電源を入れ、TVボタンを押す。

DVDを見るには

- 1 テレビの電源を入れ、テレビの入力を本機に切り換える。(本機のモニター出力をテレビに接続していない場合は、テレビの入力を見たいソースの機器に切り換える。)
- 2 本機の電源を入れ、ファンクションボタン(VIDEO、DVD 2CHまたは5.1 CH/DVD)を押して、使用したい機器を選ぶ。
- 3 選んだ機器の電源を入れ、再生する。

好みの音で聞くには

こんな時は

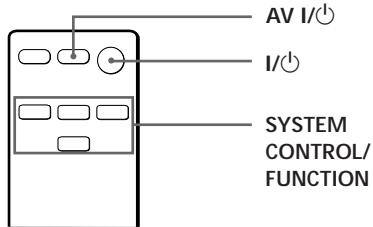
音を瞬時に消す

使うボタン

リモコンの消音ボタンを押します。前面のMUTINGランプが点灯します。もう1度押すと元の音量に戻ります。

リモコンで聞きたい音源を選ぶ

本機や本機につないだソニー製の機器を付属のリモコンで操作することができます。



1 使用したい機器のシステムコントロール／ファンクションボタンを押す。

本機と選んだ機器の電源が入ります(電源が入らないときは選んだ機器の電源スイッチを押してください)。リモコンのシステムコントロール／ファンクションボタンは出荷時に次のように設定されています。

見たい、聞きたい音源 押すボタン

テレビ番組 テレビ

ビデオテープ ビデオ

デジタルビデオディスク DVD
(DVD)プレーヤー

デジタルビデオディスク 5.1 CH
(DVD)プレーヤー・
ドルビーデジタルAC-3
デコーダー

2 再生する。

詳しくは「リモコンのボタン説明(22ページ)」をご覧ください。

電源を切るには

AV I/OffボタンとI/Offボタンを同時に押す。

本機とソニー製の機器の電源が切れます(電源が切れないときは、その機器の電源スイッチを押してください)。

 工場出荷時の設定を変えたいときは

13ページをご覧ください。

 ソニー製のテレビをお使いの場合

- ・ビデオ、DVD、または5.1 入力ボタンを押すと、テレビの電源が自動的に入り、ビデオの入力(ビデオ)に切り換わります。入力が正しく切り換わらないときは、リモコンのテレビ／ビデオボタンを押してください。
- ・テレビボタンを押すと、テレビの電源が自動的に入ります(ビデオの入力には切り換わりません)。
- ・テレビのみを操作するときはテレビのリモコンを使用します。

ご注意

ソニー製のテレビの中で、本機に付属のリモコンで操作できないものもあります。

ファンクションボタンの設定を変える



システムコントロール／ファンクションボタンの設定(12ページ)がお手持ちのシステムと合っていない場合は、ボタンの設定を変えることができます。例えば、ソニー製のLDプレーヤーをビデオ2 DVD 2 CH端子につないでいる場合、DVDボタンでLDプレーヤーを操作できるように設定することができます。

それぞれのボタンは下記のように対応しています。

ボタン	操作する機器
ビデオ	ビデオデッキ(リモコンモードはVTR 1*、VTR 2*、VTR 3*)
DVD	CDプレーヤー、DVDプレーヤー、LDプレーヤー

* 出荷時にはVTR 3に設定されています。

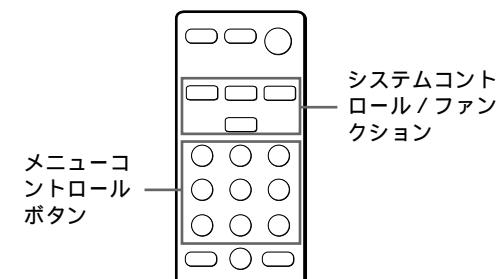
* ソニー製のビデオデッキは、VTR 1、2または3の設定で動作します。これらはそれぞれベータ、8 mm、VHSに対応しています。

変更したいシステムコントロール／ファンクションボタンがビデオの場合

設定したい機器	メニューントロールボタン
VTR 1	^
VTR 2	決定・実行
VTR 3	▼

変更したいシステムコントロール／ファンクションボタンがDVDの場合

設定したい機器	メニューントロールボタン
DVD	決定・実行
LD	画面表示
CD	>



1 設定を変更したいシステムコントロール／ファンクションボタンを押し続ける。
(例えば、DVDボタン)

2 システムコントロール／ファンクションボタンに設定させたい機器のメニューントロールボタンを押す。
(例えば、LDプレーヤーなら画面表示)

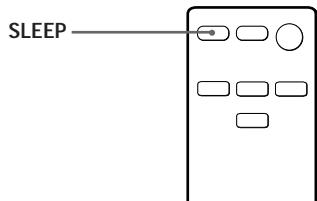
これで、DVDボタンでソニー製のLDプレーヤーを操作できるようになります。

元の設定に戻すときは
上記の手順に従って、設定しなおしてください。

すべてのファンクションボタンを
工場出荷時の設定に戻すときは
I/Offボタン、AVI/Offボタン、MASTER VOL -ボタンを同時に押します。

スリープタイマーを使う

スリープタイマーで指定した時間が経つと、自動的に本機の電源が切れます。



電源が入っているときに、リモコンのスリープボタンを押します。ボタンを押すたびに、以下のように時間表示が変わります。

→ 2:00:00 → 1:30:00 → 1:00:00 → 0:30:00 → OFF →

時間を指定した後、表示窓は暗くなります。

 本機の電源を切る前に残り時間を確認するにはスリープボタンを押します。表示窓に残り時間が表示されます。

サラウンドを楽しむ前に

本機は、それぞれのソースに合ったサラウンドをお楽しみいただくために、個々のサラウンドの特徴を生かして、あらかじめ音場効果が設定されています。

また、好みに応じてサラウンド効果を調節できるパラメーターも備えてあります。

音場効果を選ぶには

このページの「音場効果を選ぶ」を参照してください。音場効果の呼び出しかたと、それぞれの音場効果について説明しています。

ドルビープロロジックサラウンドを楽しむには

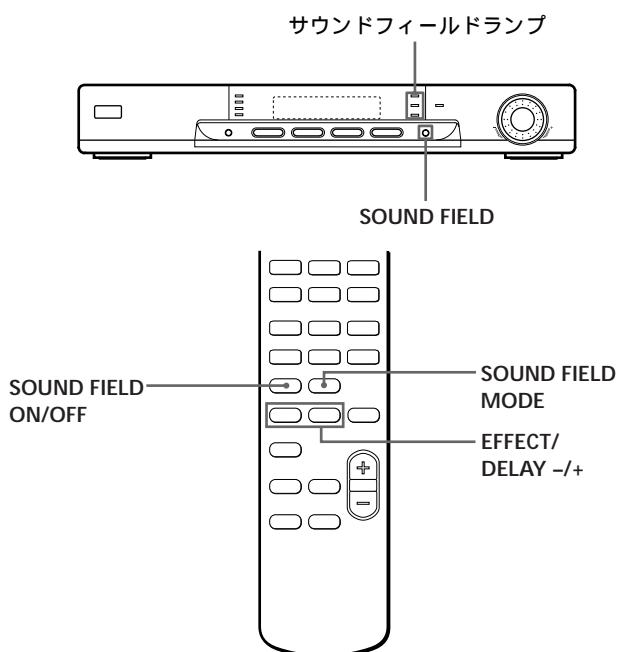
16ページの「ドルビープロロジックサラウンドを楽しむ」を参照してください。お手持ちのスピーカーシステムのレベルの調節のしかたや、PRO LOGICの音場効果の調節のしかたを説明しています。

サラウンドについての詳しい説明は

21ページの「用語解説」を参照してください。

音場効果を選ぶ

本機に音場効果がすでにプログラムされています。再生したいプログラムに応じて、手軽にサラウンド効果をお楽しみいただけます。



1 サウンドフィールド(リモコンではサウンドフィールド入/切)ボタンを押して音場効果をオンにする。表示窓に音場効果のランプが点灯します。

2 サウンドフィールド(リモコンではサウンドフィールドモード)ボタンを押して、希望する音場効果を選ぶ。

次の表を参照して、適切な音場効果を選択します。

音場効果	得られる効果
PRO LOGIC*	ドルビーサラウンド処理されたプログラム/ソフトの再生用です。
C. STUDIO (シネマ スタジオ)	映画館の音響特性を再現します。標準的な映画に適しています。
SIMULATED	サラウンド処理を加えてモノラルの映画ソースから映画館の雰囲気を再現します。

* 表示窓にDOLBY PLと表示されます。

音場効果をオフするには

サウンドフィールドボタン、またはリモコンのサウンドフィールド入/切ボタンをくり返し押してSF OFFを選ぶ。

💡 ドルビーサラウンドでエンコードされたソフトは、パッケージを見ればわかります。ただし、ビデオテープやレーベルディスクによってはパッケージに記載されていなくても、ドルビーサラウンドを使用しているものもあります。

ご注意

5.1 CH/DVDを選ぶと、サラウンドは解除されます。

エフェクトレベルを調節する (C. STUDIO、SIMULATEDのみ)

エフェクトレベルを上げることにより、サラウンドサウンドの効果をより顕著にします。
6段階に調節できます。

- 1 聞きたいソースを再生する。
- 2 リモコンのエフェクト/ディレイ (-/+) で希望のレベルを選ぶ。
エフェクトレベルは表示窓に表示されます。

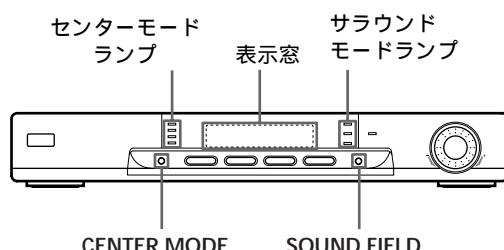
ご注意

再生するソースによっては、効果が小さいものもあります。

ドルビープロロジックサラウンドサウンドを楽しむ

ドルビープロロジックサラウンドサウンドの効果を充分に得るために、ご使用のスピーカーシステムに合わせてセンター モードを選択します。次にスピーカーの音量を調節します。

以下の調節を行うには、リアスピーカーやセンタースピーカーを接続していなければなりません。



センター モードを選択する

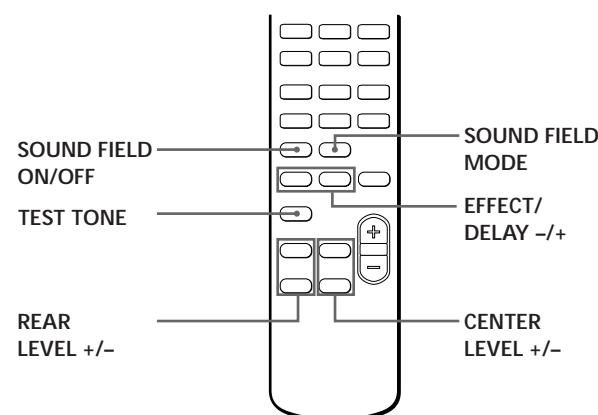
本機にはPHANTOM、3 STEREO、NORMAL、WIDEの4種類のセンター モードがあります。本機に付属のスピーカーをお使いのときはセンター モードをお好みによりNORMALかWIDEにしてサブwooferの電源を入れてください。

それ以外のスピーカーをお使いのときはスピーカーのシステムに最も適したモードをお選びください。

- 1 本機のサウンドフィールドボタンを押して、PRO LOGICの音場効果を選ぶ。

- 2 表示窓に希望するセンター モードが表示されるまで、センター モードボタンを繰り返し押す。
下の表を参考にしてセンター モードを選んでください。

スピーカー構成	選択するモード	結果
フロント、リアスピーカー(センター) スピーカーなし)	PHANTOM	センターチャンネルの音はフロントスピーカーから出ます。
フロント、リア、大型センタースピーカー	WIDE	センターチャンネルからすべての周波数帯域が再現されます。
フロント、リア、小型センタースピーカー	NORMAL	センターチャンネルの低音はフロントスピーカーから出ます。
フロント、センタースピーカー(リアスピーカーなし)	3 STEREO	リアチャンネルの音はフロントスピーカーから出ます。



スピーカーの音量を調節する

テストトーンを利用すれば、各スピーカーの音量を同レベルに設定できます。

リモコンを使えば、リスニングポジションから各スピーカーの音量を調節することができます。

1 サウンドフィールドボタンを繰り返し押して DOLBY PLを選び、センター モードをNORMALにする。

2 リモコンのテストトーンボタンを押す。
各スピーカーから順番にテストトーンが出ます。

3 リスニングポジションで、各スピーカーのテストトーンが同レベルで聞こえるように音量を調節する。
・センタースピーカーのレベルを調節するには、リモコンのセンターレベル +/ - ボタンを押す。
・リアスピーカーのレベルを調節するには、リモコンのリアレベル +/ - ボタンを押す。
それぞれのスピーカーのレベルは表示窓に表示されます。

4 リモコンのテストトーンボタンを押して、テストトーンを切る。

💡 全体の音量調節をするには
本体のMASTER VOLUMEつまみ、またはリモコンの主音量ボタンを使います。

💡 リアスピーカーの出力レベルを上げるには
-10~+6に設定されているリアスピーカーのレベルを
を-7~+9に上げることができます。
本機のサウンドフィールドボタンを押したまま電源を入れ、表示窓にNORMALと表示されるまで押したままにします。
表示窓にはリアレベルは-10から+6と表示されますが、出力レベルは変更されています。

もとに戻すには、同じ手順を行い表示窓にGAIN LOWと表示させます。

ご注意
5.1 CH/DVDモードのときは、センターとリアスピーカーのレベル調節はできません。

ディレイタイムを調節する

リアスピーカーからの出力を遅らせることによって、サラウンドをより効果的にお楽しみいただけます(ディレイタイム)。S(15 ms) M(20 ms) L(30 ms)の3種類にディレイタイムを調節することができます。例えば、大きな部屋で、リスニングポジションに遠い所にリアスピーカーを置いたときは、ディレイタイムを短く設定します。

1 ドルビーサラウンドがエンコードされたプログラムソースを再生する。

2 サウンドフィールド(リモコンではサウンドフィールド入/切)ボタンを押して、センター モードをNORMALにする。

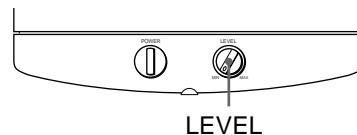
3 リモコンのエフェクト/ディレイ(-/+)ボタンを使って、希望するディレイタイムをを選ぶ。
現在のディレイタイムが表示窓にDELAY S, DELAY M, DELAY Lの順に表示されます。

ご注意

約1週間、電源コードを抜いたままにすると、サラウンド効果のパラメーター値は工場出荷時の状態に戻ります。

サブウーファーを調節する

細かい調節をすることによって音源をよりお楽しみいただけます。



1 レベルつまみを回して音量を調節する。
プログラムソースに応じてお好みの音量に調節します。

ご注意

良い音質をお楽しみいただくために、サブウーファーの音量は上げすぎないでください。

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。
(チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。)

使用中の本体の温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。

特に、大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。

また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しの良い所でお使いください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るもので

す。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう1度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーご相談窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。

音が出ない、ほとんど聞こえない

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- MUTINGランプが点灯している場合は、リモコンの消音ボタンを押す。
- 正しい機器が選ばれているか確認する。
- 正しいコード類で接続されているか確認する。
- ショートしたため、本機の保護回路が働いている(「PROTECT」が点滅します)。本機の電源を切り、ショートした要因を取り除いてから、電源を入れる。

左右の音のバランスが悪い、または逆転している

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。

ハム音またはノイズがひどい

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- 接続コードがトランクやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3 m離れているか確認する。
- テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。
- プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。

リアスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない

- サウンドフィールドをオンにする。
- センターモードを3 STEREOにしていないか確認する(16ページ)。
- スピーカー音量を調節する(17ページ)。

ご注意
ドルビーサラウンドの効果は使用するソースや受信状況により左右されます。

センタースピーカーの音が聞こえない

- 正しいセンターモードを選んでいるか確認する。
- スピーカー音量を調節する(17ページ)。

サブウーファーの音がでない、ほとんど聞こえない

- サブウーファーがオンになっているか確認する。
- 正しく接続されているか確認する。

音が突然出なくなる

- 正しく接続されているか確認する。スピーカーの端子で芯線どうしが触れてショートしている可能性があります。

サラウンド効果が得られない

- サウンドフィールドをオンにする。

テレビ画面が出ない、または明瞭でない

- 適切なファンクションを選ぶ。
- テレビで適切な入力モードに合わせる。

リモコンで操作できない

- 本体のリモコン受光部にに向けて操作する。
- リモコンと本体の間にある障害物がある。
- リモコンの乾電池を交換する。
- リモコンで正しいファンクションを選ぶ。

以上の点検をしても正常に動作しないときは、9ページの「はじめてお使いになるときは」の操作手順を参照して、メモリーをオールクリアしてみてください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ
お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品(製品の機能を維持するため必要な部品)を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

なお、補修用性能部品の保有期間は通商産業省の指導にもよるものであります。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- ・型名：HT-K170
- ・故障の状態：できるだけ詳しく
- ・購入年月日：
- ・お買い上げ店：

主な仕様

TA-VE170(アンプ)

実用最大出力

ステレオモード フロント部: 35 W + 35 W
(EIAJ*, 6 Ω負荷)

サラウンドモード フロント部: 35 W/ch
(EIAJ*, 6 Ω負荷)
センター部: 35 W
(EIAJ*, 6 Ω負荷)
リア部: 35 W/ch
(EIAJ*, 6 Ω負荷)

スピーカー適合インピーダンス

フロント、リア、センター部
6 Ω ~ 16 Ω

周波数特性 20 Hz ~ 50 kHz +0/-2 dB

入力

	入力端子	入力感度	入力インピーダンス
音 声	テレビ、ビデオ、 DVD 2CH、 5.1 CH/DVD 入力	200 mV	50 kΩ
映 像	テレビ、ビデオ、 DVD 2CH、 5.1 CH/DVD 入力	1 Vp-p	75 Ω

出力

	出力端子	出力レベル	出力インピーダンス
音 声	ビデオ(音声出力)	200 mV	10 kΩ
映 像	音声出力(フロント、 リア、センター、 ウーファー)	1 V	1 kΩ
	ビデオ、モニター出力	1 Vp-p	75 Ω

電源・その他

電源 AC 100 V、50/60 Hz
消費電力 115 W
外形寸法 430 x 274 x 64.5 mm
(幅/高さ/奥行き)
質量 4.6 kg

SS-MS215(フロントおよびセンター、リアスピーカー)

形式 フルレンジ、バスレフ型、防磁型
5 cm、コーン型
使用スピーカー 6 Ω
定格インピーダンス 60 W
最大入力(EIAJ*) 84 dB (1 W, 1 m)
出力音圧レベル 150 Hz ~ 20 kHz
実効周波数帯域 76 x 100 x 86 mm
最大外形寸法 (幅/高さ/奥行き)
質量 425 g

SA-WMS215(アクティブサブウーファー)

形式 アコースティックローデッドバスレフ型、防磁型
16 cm、コーン型
使用スピーカー 50 W (EIAJ*, 8 Ω負荷)
実用最大出力 32 Hz ~ 250 Hz
周波数帯域 250 Hz
カットオフ周波数 ライン入力(ビンジャック)
入力端子
電源・その他
電源 AC 100 V、50/60 Hz
消費電力 40 W
最大外形寸法 240 x 285 x 355 mm
(幅/高さ/奥行き)
質量 8 kg

付属品

リモコン(1)
単3形乾電池(2)
スピーカー(5)
フロント、センター、リア用
スピーカーコード 10 m(2)
スピーカーコード 2.5 m(3)
モノラルオーディオコード(1)
スピーカーパッド(20)
取扱説明書(1)
保証書(1)
ソニーご相談窓口のご案内(1)

*EIAJ(日本電子機械工業会)の規格による測定値です。

本機の外観および仕様は予告なく変更することがあります、ご了承ください。

サラウンド	<ul style="list-style-type: none"> EFFECT DELAY TIME REAR LEVEL CENTER LEVEL** 入力バランス 	6ステップ 15 ms、20 ms、 30 ms(PRO LOGIC モード時) -10 dB ~ +6 dB、 1 dBステップ -10 dB ~ +6 dB、 1 dBステップ 自動
-------	--	---

** CENTER LEVELパラメーターが調節可能な音場効果のみ
(15ページ)

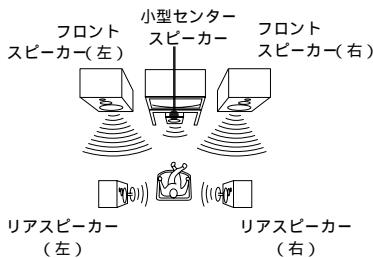
用語解説

センター モード

ドルビープロロジックサラウンドを、より効果的にするモードです。ご使用になるスピーカーシステムに応じて、次の4種類の中から選択できます。

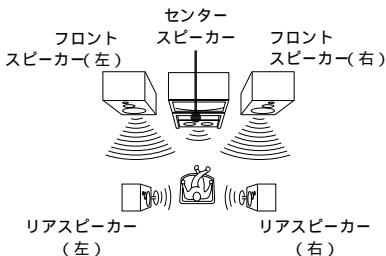
• NORMAL(ノーマル)モード

フロント、リアスピーカーと小型のセンタースピーカーを使用している場合に選びます。小型スピーカーは低音を十分に再生できないため、センター チャンネルの低音はフロントスピーカーから出力されます。



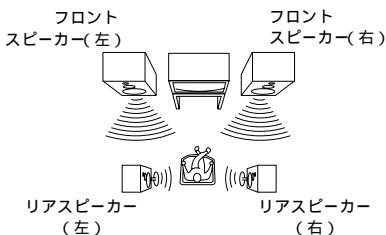
• WIDE(ワイド)モード

フロント、リアスピーカーと大型のセンタースピーカーを使用している場合に選びます。ドルビーサラウンドをフルにお楽しみいただけます。

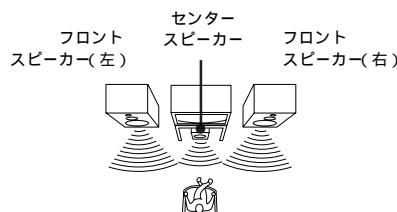


• PHANTOM(ファンタム)モード

フロント、リアスピーカーのみ使用して、センタースピーカーを使用しないときに選びます。センター チャンネルの音は、左右のフロントスピーカーから出力されます。



- 3 STEREO(3ステレオ)モード
- フロントとセンタースピーカーのみを使用していて、リアスピーカーを使用していない場合に選びます。リアチャンネルの音は、左右のフロントスピーカーから出力されます。



ドルビープロロジックサラウンド
映画などに標準化されている、ドルビーサラウンドサウンドのデコーダーシステムです。4つのチャンネルを使用して、効果音やセリフ、および左右への音の移動や音楽などを再生し、従来のドルビーサラウンドシステムより、音の動きや定位がきわめて自然に表現され、あたかも映画館やライブコンサートの会場にいるような、迫力ある臨場感が楽しめます。この効果を楽しむには、少なくとも1組のリアスピーカーおよび(または)1個のセンタースピーカーが必要です。また、お手持ちのスピーカーシステムに合わせて、センター モードを選んでください。

ドルビーデジタル(AC-3)

ドルビープロロジックをさらに発展させ新しく開発されたサラウンドのフォーマットです。リア出力をステレオ化した上で周波数帯域を拡大、さらに低域を受け持つサブウーファー出力も独立して設けてあります(サブウーファーの出力は重低音効果が必要なときだけ動作するので0.1chと数えられるため、「5.1ch」と呼ばれます。あらかじめ5.1チャンネルが分離された状態で記録されており、チャンネル間のセパレーションも良好です。さらにすべての音がデジタル信号で処理されるので、劣化しにくいという特長を持っています。なお、AC-3とはドルビーリサーチ所が開発したAudio Coding方式の3番目という意味です。

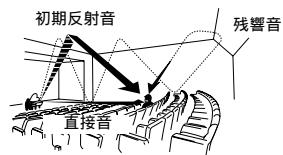
5.1 CH 入力端子

ドルビーデジタル(AC-3)の音声信号を入力でき、5.1チャンネルのサラウンドサウンドが楽しめます。ドルビーデジタルAC-3デコーダーやドルビーデジタルAC-3デコーダー内蔵のDVDプレーヤーを接続してください。

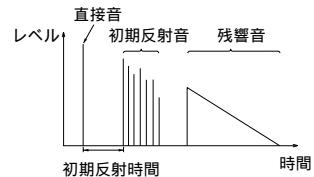
サラウンドサウンド

直接音、初期反射音および残響音の3要素で構成されているサラウンドです。音を聞いている場所の音響効果は、この3つの音の要素の聞こえかたによります。これらの音の要素で、コンサートホールの広さや環境を実際に感じることができます。

• 音の種別



• リアスピーカーからのサウンドの遷移

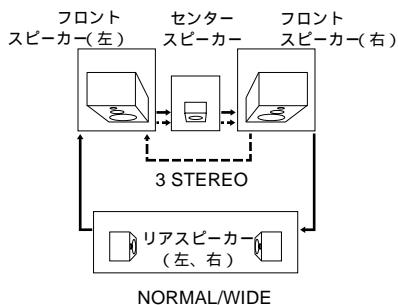


テストトーン

スピーカーの音量の調節のためアンプが 出力する信号。テストトーンは次のように出力されます。

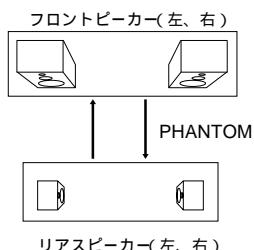
• センタースピーカーを使用している場合(NORMAL / WIDE / 3 STEREOモード)

テストトーンは、フロント(左) センター、フロント(右) リアスピーカーの順で出ます。



• センタースピーカーを使用していない場合(PHANTOMモード)

テストトーンは、フロントとリアスピーカーから交互に出ます。



リモコンのボタン説明

ソニー製のAV機器を付属のリモコンで操作するとき、この表をご覧ください

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
◀◀/▶▶	ビデオ/DVDプレーヤー/CDプレーヤー/LDプレーヤー	早送りまたは巻戻し(ディスクの始めまたは終わりに向かってサーチ)を行います。
◀◀/▶▶	DVDプレーヤー/CDプレーヤー/LDプレーヤー	トラックをスキップします。
■	ビデオ/DVDプレーヤー/CDプレーヤー/LDプレーヤー	再生または録音を一時停止します。(録音一時停止の機器の録音を開始します。)
▶	ビデオ/DVDプレーヤー/CDプレーヤー/LDプレーヤー	再生を開始します。
■	ビデオ/DVDプレーヤー/CDプレーヤー/LDプレーヤー	再生を停止します。
AV I/□	テレビ/ビデオ/DVDプレーヤー/LDプレーヤー	電源をオンまたはオフにします。
ENTER/EXECUTE	テレビ/ビデオ/DVDプレーヤー	設定を決定します。
ANT TV/VTR	ビデオ	アンテナ端子からの出力信号を選択します。(テレビ信号またはビデオプログラム)
MENU	テレビ/ビデオ/DVDプレーヤー	メニュー画面を表示します。
TITLE	DVDプレーヤー	DVDのタイトルを表示します。
EXIT/RETURN	テレビ/DVDプレーヤー	メニュー画面を終了したり、前の画面に戻ります。
DISPLAY	テレビ/DVDプレーヤー/LDプレーヤー	表示窓に表示される情報を選択します。

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
^	テレビ/ビデオ/DVDプレーヤー	VIDEO CONTROL、AUDIO CONTROL、SET UP、LANGUAGE、DEMOなどのメニュー画面で、数値を大きくしたり、カーソルを上に移動したりします。
▼	テレビ/ビデオ/DVDプレーヤー	VIDEO CONTROL、AUDIO CONTROL、SET UP、LANGUAGE、DEMOなどのメニュー画面で、数値を小さくしたり、カーソルを下に移動したりします。
>	テレビ/ビデオ/DVDプレーヤー	メニュー画面でカーソルを右に移動します。
<	テレビ/ビデオ/DVDプレーヤー	メニュー画面でカーソルを左に移動します。
VTR CH +/-	ビデオ	ビデオのチャンネルを切り替えます。
TV CH +/-	テレビ	テレビのチャンネルを切り替えます。
TV VOL +/-	テレビ	テレビの音量を調節します。

* メニューコントロールキーで操作できないテレビもあります。

索引

五十音順

あ行

主な仕様 20

音場効果

選ぶ 15

調節する 16

か行

聞きたい音源を選ぶ 10

故障かな?と思ったら 18

さ行

- サラウンドサウンド 21
- サラウンドを楽しむ前に 15
- 使用上のご注意 18
- スピーカーの音量を調節する 17
- 3ステレオモード 16、21
- スリーブタイマーを使う 14
- 接続
 - スピーカーを接続する 6
 - 電源コードを接続する 9
 - ビデオ機器を接続する 5
- センターモード 21
 - 3ステレオモード 16、21
 - ノーマルモード 16、21
 - ファンтомモード 16、21
 - ワイドモード 16、21
- センターモードを選択する 16

た行

- ディレイタイム 17
- ディレイタイムを調節する 17
- テストトーン 6、21
- ドルビーサラウンド 21
- ドルビーデジタルAC-3 5、21
- ドルビープロロジックサラウンド 21
- ドルビープロロジックサラウンドを楽しむ 16

な行

ノーマルモード 16、21

は行

- 箱から出したら 4
- ファンтомモード 16、21
- 保証書とアフターサービス 19
- 本機をご使用になる前に 9

ら行

- リアパネルの各部名称 23
- リモコン
 - 聞きたい音源を選ぶ 12
 - 電池を入れる 4
 - ファンクションボタンの設定を変える 13
 - ボタン説明 22

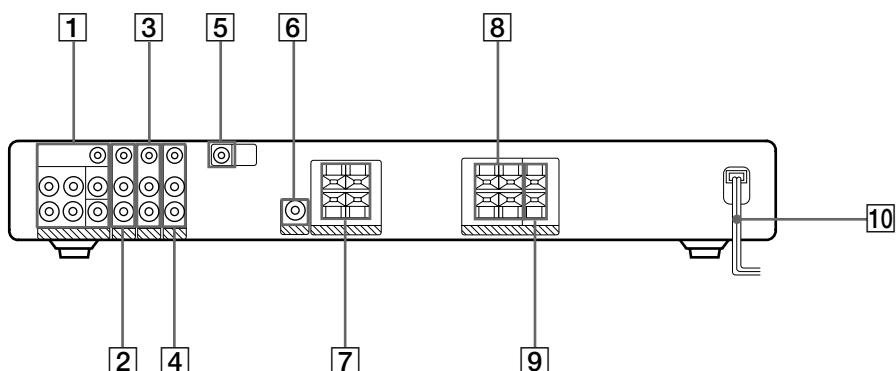
わ行

ワイドモード 16、21

アルファベット順

- ノーマル
NORMALモード 16、21
- ファンтом
PHANTOMモード 16、21
- ステレオ
3 STEREOモード 16、21
- ワイド
WIDEモード 16、21

リアパネルの各部名称



1 チャンネル
5.1 CH 端子

2 DVD 2CH 端子

3 テレビ端子

4 ビデオ端子

5 モニター出力端子

6 ウーファー端子

7 フロントスピーカー端子

8 リアスピーカー端子

9 センタースピーカー端子

10 電源コード

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはお客様ご相談センターへ

- | | | |
|----------------------------|--|----------------------------|
| ● ナビダイヤル..... |  0570-00-3311 | 受付時間：
月～金
9:00～20:00 |
| (全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます) | | |
| ● 携帯電話・PHSでのご利用は..... | 03-5448-3311 | 土・日・祝日 |
| ● Fax | 0466-31-2595 | 9:00～17:00 |

受付時間：

月～金

9:00～20:00

土・日・祝日

9:00～17:00